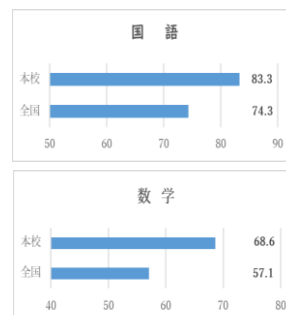


校訓	自分を育て 自分を生かし 社会を明るく	令和5年度学校だより 「天の子」 第10号	発行日	令和5年8月29日
教育目標	夢と誇りのある生徒の育成 ～自ら学び、考え、行動する力と、豊かな心を育む～		発行者	伊丹市立天王寺川中学校 校長 前田 徳 三

【全国学力・学習状況調査】（速報：第2弾）

令和5年4月18日に実施した全国学力・学習状況調査結果の第2弾をお知らせします。

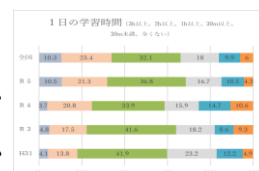
粘り強さに関する調査において、国語、数学の設問において「全ての問題で最後まで書こうと努力した」と回答した生徒の割合が全国を大きく上回り、無解答の生徒も全国よりも圧倒的に少ないなど、粘り強く取り組む生徒が育ってきました。今回、国語は、インタビュー記事を読み、所定の語句が話者の意見であることや根拠の有無を見極める問題が出題されました。また、「情報の扱い方」に関する問題では、現在、読書活動を進めている中、読書に関する説明文の要旨を問う問題がありました。そして、説明文から注目箇所を引用した上で、今後の自身の読書について経験や知識を交えて記述する問題でした。数学は、イチヨウの木の葉が色づく時期の変化を示した箱ひげ図を読み取り、二つの年代を比べて時期が遅くなっていると言える理由を記述する問題などが出題されました。英語は、放送を聞いて質問の答えとなる情報を選択したり、友人が英文メールで示した条件に合うイベントを選んだりする問題でした。日常的な話題について自分が置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるかを判断して聞き取ったり、読み取ったりする問題がありました。また、ロボットに関する英文を読む問題が出題され、要点を4択から選んだり、自分の考えや理由を英語で記述したりする問題が出題されました。



このように、ただ単に、各教科の内容の「知っていること」だけでなく、その先の知識創造に繋がる「できるようになること」や「深い学び」になっているかを測る難しい問題が多く出題されました。しかし、子どもたちは、知っている知識を活用して粘り強く解こうと頑張っていました。

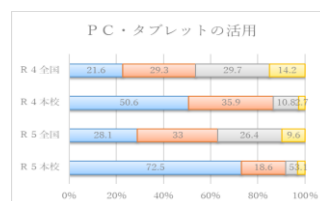
学力を向上させるためには、何と言っても粘り強さは必須です。今回のように長く続けられる「根気」と難しい問題に対しても諦めない「粘り強さ」を兼ね備えていれば、本校の子どもたちの学力は益々、向上します。今後も、子どもたちには難しいことに対してすぐに諦めたり、同じことを繰り返すことに飽きたりせず、さらに粘り強く考え、取り組み続けられる力を育成してまいります。

次に、本校の課題であった家庭学習などの学習時間については、大きな向上が見られました。学習時間で、平日3h以上が10.5%、



2h～3hが21.3%、1h～2hが36.8%で、平日1h以上学習している生徒は68.6%で、全国の65.8%を調査後、初めて上回ることができました。

また、タブレットの活用においては、昨年度も全国を大きく上回りましたが、今年度は、全国の伸び率も含めて、全国をさらに大きく全国を上回ることができました。ただ、タブレットを使うことが目的ではなく、タブレットの方が、学習効果が高まる内容とそうでないものを見極めて取り組んでいます。決して、「使うこと」のみが正しいものではありません。教科・領域・単元などに応じて、最適な学習方法を検索して活用しています。



「Society5.0」の時代を迎え、現在ある職業の半分がなくなる可能性があります。以前のように教師が一方向的に教える授業ではなく、タブレット等を効果的に活用して、子どもたちが主体的に調べたり、授業支援ソフトも活用して他者と協働して知恵を出し合ったりするなどの効果的な「探求の学び」を研鑽してまいります。

さらに、本校が大切にしている「自分にはよいところがある」という自己肯定感においては全国を上回り、本校の経年比較でも年々向上していました。自己肯定感が高ければ、自己効力感（自分を信じて行動に移す力）に繋がります。アメリカのスタンフォード大学のアルバード・バンデューラ教授は「自己効力感のある人は、難問や難題に挑戦する意欲が旺盛で、なおかつ失敗からの立ち直りが早い」と語っています。また、達成感や自己肯定感が得られて善循環していけば、物事に挑戦する実行力が発揮でき、粘り強く継続することができます。さらに、生涯にわたって自分を支えてくれるブレない軸にもなります。この力が強固であればあるほど、挑戦する実行力や粘り強く継続することができます。加えて、多少の失敗にも諦めず、最後までやり抜くことができます。

自己肯定感が向上すると同時に、人に対しても優しく接することができるなど、子どもたちの心も育っています。「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」と考えている子どもの数は年々向上し、97.7%と全国の95.5%を上回りました。自己肯定感を高めることは、子どもたちの豊かな成長には欠かすことができません。どうしても、他の子どもや兄弟と比べて、子どもの足りないところが見えてしまいがちです。しかし、子どもの持っている良い部分を多く見つけて、子どもの持っている可能性を最大限にいかしてあげてください。それが、これからの予測不能な未来を幸せに逞しく生きていくためには重要です。今回、ご家庭の協力を得ながら、子どもたちや先生方の頑張りがうれしくて、多くの成果をお知らせしました。しかし、細かな点において多くの課題も明らかになりました。そこを教職員と共有し、さらに本校が向上できるよう取り組んでまいります。

天王寺川中学校の取組や子どもたちの様子をホームページに載せています。是非、ご覧ください。

https://www.itami.ed.jp/school/Jrhigh/jr_tenn/index.html

※右のQRコードをお読みいただき、天王寺川中学校のホームページをご覧ください。

